WASON
HQ
1104
J74+

THE
WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十年十月一日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送稅

第七十八號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 78. October 1st, 1887.

第七十八號

EDITORIAL:— On Girl's School: No. III.

LEADING ARTICLES:—History of the Woman's Right, by Prof. N. Hozumi; A Word to Wives.

MISCELLANIES:—My Tour during the Vacation, by Prof. K. Konakamura. Strange Apparitions in an Autum Night: Choice of Nurse; The Noise is a Sentinel.

CRITICAL NOTICES:—"The Husband of one Wife": by Mr. K. Yoda"; "Woman's Progress the Crown of Civilization": A Novel by Mr. T. Shugiyama; Domestic Book-Keeping, by Mr. R. Fujio.

BIOGRAPHIES:—The Eminent Women: No. I.

NOVEL:—"The Fragrant Rose": No XI.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社説　女學校の論(第三)

●論説　細君に告ぐ○婦女權理の沿革第二(穗積陳重君)

●叢話　避暑の家づと(小中村清矩君)○秋夜の怪談○乳母を選ぶ一の注意○密室に香を燒く事

●批評　杉山藤二郎氏女權美談文明の花○藤尾録郎氏著家計簿記法例題○依田孝氏著一夫一婦論

●佳傳　女丈夫傳(第二)

●寄書　婦人の未來(中川永輝)

●新報　十七件

●特別廣告

●廣告

●珊瑚の珠　(第三十七回)

○女德女工論の著者アダムス曰くロードリットン(英國有名の小説家)は學識天才ある其母より才能を受け得て勉めて之を研がき遂に彼の大家と爲れり殊に其の作文に得たるは必竟幼なきときより其母の之を奬勵したるに由ると

○有名の詩人キングスレー曰く余はいよ〳〵固く確信す生理學者はます〳〵强よく證論すかの母親の更に且つ更に大切の者たるとを、殊に子供の一身に取つては母たるもの全能の權あるものと云ふべし母親の權力、持説、感覺及び妄想の如きものに至るまで悉く其子の一生に關係するところあるあり豈に之を忽かせにすべけんや

○著名の詩人ロバートバーンスは良妻の性質を十に分てり曰く克已より起る良き質曰く忍耐より起る良き質曰く無關係やり放あし等の事無き質曰く能く耐へて能く整うるの質曰く立派ある事即ち話の仕方宜しく容貌美しく身振進退の優雅なる如き事曰く頓智頓才ありて賢こき事曰く敎育ある事曰く生れ宜しきか身代宜しきかの如く凡そ其天運身分の勝りたる事、以上の如きものを良き妻に必要なる性質なりと云へり

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

東京婦人矯風會々頭矢嶋揖子肖像

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社新書發兌

つれ〴〵草講義第一　定價十二錢　郵稅四錢

右は鈴木弘恭君が下田歌子の和文教科書を諸の女學校に於て譯釋ありたる解明しを社員が筆記したる者なり元と教科書第一卷の講釋なれば斯く題しぬ

右第一卷出版の後ち諸大家より左の評を寄せられぬ

○小中村清矩君云く(上略)昔より注さくの書ともこれかれあれど或は事足らず又はくはしきに過たればいかで大かたをつゞまやかに解き得たる事もあれかしと常に思ひたりしに此講義を見れば一段ことに先づ文詞をときあかし了て大むねを取りすへて常のたゞ言もてたれも〳〵心得やすきさまにさとされ又折には交つくるらん法則ともなりぬべき言をさへ交へられたれば頁り其とき言を聞くこゝちして學びの山口わけりめん女わらべには栞ともいふべくこよなきたま物ならんかし(下略)

○內藤耻叟君云く徒然草の抄拜見仕候每度御手練の義感歎仕候此頃女子もいかめしき文躰を書き候へ共女子の文章ハ大抵徒然草などの躰裁に致度事と存候漢文めきたるは不相應の樣にも相覺候只管に男勝りなるが女子の本意とも不被存候依ては此御抄など尤も作文の軌範と相成可申候(下略)

○黑川眞賴君云く(上略)りのはじめのほど十八段ばかりすり卷になれるをすこしいとまありければ取いでて見るに「我やとのむつましき人となるものはつれ〴〵といふふみにぞありける」手はなちかたくて日のくるゝまでに見をへつ

○久米幹文君云く徒然草は(中略)諸の學校の教科書に用ゐるなれど先は大ようにのみ見すぐしてまめやかに心得たる人はまれなるべしさるを鈴木大人のこの講義よいとつばまやかに文段句法のきだ〳〵ことばの心はへをもとき明されたるは世にある注釋どもにまさりてめでたし初學の人この書をよくよみたらんには古今の文法をさとり得て其かきいでん文も又めでたからんかし

婚姻論　全一册(橫山雅男君著)　定價三十五錢　郵稅十四錢

○朝野新聞評(畧)之を古今萬國の記錄に徵し既往現在の實例を援き論說餘す所なし近來女權論の盛んなるに連れ婚姻の一事も人心に浮み出る所となり新聞雜誌等も之を論ずる事少からざれど未だ本書の明晰詳確なるに及ぶものなしとの世評あるへ過ぎたりと云ふべからず云々

○每日新聞評(畧)書中述る所徒に空理に依らずして統計の事實に依り學理に徵して婚姻の標準を示す等は著者の最も苦心したる所ならん云々

○やまと新聞評(畧)苟も文明社會に周旋する者の一讀を要すべきは敢て喋々する迄もなし予輩が此書を稱贊する點は議論の歐米直輸入に非ずして亦能和漢古今來の慣例をも取調へ亦統計法に依て今日の實況をも究めたるにあり云々

○教育時論評(畧)每篇の論理は精密なる各國の統計と禮法とに基きたるもの、如き有益の論著なり

○めざまし新聞評(畧)何々等を論じたるものにて發行所へ例の停止後評判の好き女學雜誌社なり

○日本の女學評(畧)今ま此論の本邦に產したるは必竟文明の媒妁に由る者として吾人は慶賀すべき也

木村鐙子小傳　一册(巖本善治編)

右は編者が明治女學校生徒の爲に編著し且つ友人知己の間に配布したる者なれども尙ほ殘部有之に付一册十錢郵稅六錢を送らるゝ者には呈送すべし

文法口授　一名和文獨り案內(鈴木弘恭君著)　價十八錢　郵稅四錢

右は學校教科用の書籍に適當なりとて既に成立學舍女子部頌榮女學校長榮女塾明治女學校等の教科書と爲る

束髮獨案內　渡邊鼎君著(細圖入)　定價十五錢　郵稅四錢

東京々橋區日吉町八番地

女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第七十八號

明治廿年十月一日

●社説

○女學校の論

（第三）輕々しく學校を變ゆまじき事

女學校の善惡を辨別し成るべく正當の敎育法を施す所に行いて學問すべき旨は吾人が前回に於て申し述べたる所なり眞とに一生の中尤とも大切なる時代を用ゆるとなれば上が上にも其塲所を撰んで入學すべきは勿論の覺悟なるべし。然るに此の覺悟を誤用して一たん入學したる學校を退き輕々しく他へ移り行く等の事ありては相成らず甚だ心得違ひの至なりと思はるゝに付き之と同時に更らに一つの注意を申置かざるべからず、蓋し女生徒中餘まり毎々學校を變へて終には一種の好ましからぬ習慣を得何事にも幹事敎師の處置を不平として先より先へ移り行くものあり輕卒の行ひ甚だ憫れむべし吾人屢ば之を見て歎息の思に堪へざるなり。

諺に燈臺下暗しと云へるとあり例へば東京九段坂の燈臺は其近邊に於て左程明るしとは思はれざれども之を遙かに望み見るときは光色燦然として立派なる景色甚はだ愛すべきが如し亦た西洋の金言に預言者は其故鄕に於て尊うとまれずとあり例へば耶蘇キリスト程の聖人なりとも其出處を問へば大工の子なり其敎育を問へば鑿と鉋となり其の兄弟の何某は今も此樣の身分にて其父母はわれ／＼が平生交際する所なりと承知せば故鄕の人々は決してキリストを非常の人物なりとは致すまじきが如し、凡そ世の中の事は何物も大抵此類にして平素餘まり近しくし餘り其の傍に接するときは好し之に存する所の瑕瑾はいよ／＼明らかと相成るとも之を尊うとみ之に寄依する所の念は追々に滅ずるものなり。故にわが在學するところの學校には元來如何ほどの長所ありとも燈臺の下に居るものは暗らうして殆んど之を辨じがたし己が業を受くる所の敎師は珍らしき篤行有知の人なりとも故鄕の人反つて預言者を知らず餘まり之を尊うとむの念もなく反つて多少の不平を申すともあるべし世間の通情として固より奇しむべきものにあらずと雖ども之が爲めに折角善良なる學校に留學し乍ら輕卒にも之を出で去るに至らんは眞に惜しむべき者と云ふべし。

然るに事物を遠方より眺むるの感覺は恰かも之と反對にして多少の瑕瑾は固より見へがたく燦爛たる外面のかざりのみ吾が目を打つて心を迷はすが故に元來左程にもなきものを非常

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に宜しきものと誤認することなきにあらず古人が來て見れば左程にもなし富士の山と咏じたるは此義にして世上の事物は滔く々として皆な是れなりと云はざるべからず、聞くならく今度某處に新設したる學校には洋人若干名出でゝ毎日何時間の教授を爲す由科業の工合幹事の取なし至つて信切なりと云ふ教塲も立派にして器械も備はれるよし殊に教員は孰れも聞こえたる有名の方々なり生徒の進歩も格外に速かなりと云ふ、と申すものあらば之を羨やむこと大方ならず顧みて自分の學校を見れば此迄で氣附かざりし事々も一に不平の種と爲つて面白からざる出來事少なからず寧ろ斷然退校して彼處に移らんと決し傍輩同級の仲間をも誘ひ出して望む所の學校に入る、扨て多年の望すでに達したる如く思はれ之よりは前日に倍したる勉强してあつぱれ三日相見ざるの人を驚かせんとまで勇さみ勇さんで稽古に取掛るとき暫らくして思はざりし不都合追々に出現し來り昔日の想像は全く夢の如くなりしことを悟る折も有ん此時前に在學したる學校を思ふと恰かも旅客が郷園を懐ふの情甚はだ切なるに似たるものあり遂ゐ其思ひに堪へずして再たび前の學校に立歸るものあり或るひは其校の人々に面目なしと云つて更に第三の學校に移り行くもあるべし而して第三の學校亦た思はしからず又更に之を出でゝ他に轉ずること恰かも俗に云ふ腰の落附がたき婦人の如し遂に一ケ處に永住するの忍耐心を失つて好ましからぬ惡習慣を取り轉々變はり行くの間に遂に數多の年月を損するに至る眞とに歎息の外なきなり。

故に吾人は女生徒諸君が能く其所を撰んで成るべく完備したる女學校に入學あらんことを望むは勿論なりと雖ども既に深思熟考して當さに入るべきの塲所に入りたる以上は亦成るべく之に安んじて餘り輕々しく學校を變ゆることなきを切望するなり。吾人嘗つて慰さみに植木を養ひたることあり、緣日に少さかの果木を買ひ家に持歸つて庭前の片隅に植付たる處ろ數日ゐして友人某來り云ふ凡そ果木は成るべく下に砂あつて上に壤土ある水ぬけの能き土地に適す彼の片隅はちと濕り過ぎて宜しからざるが如しと云ふ、果して然ることと思ひて卽刻之を堀り取り一方の入口に移したり、後ち一月つら〳〵庭後の樹木を見るに生ひ立ち速かにして色合青々たると地味の豊饒を示して甚はだ賴母しき摸樣あり顧みて入口に植へたるものを見るに友人の注意と左程の効能を現はさゞるが故に則ち復た之を堀り取つて庭後に移したり、思へらく之よりして生長迅速

に結果亦遠きにあらざるべしと然るに悲ひかな樹葉漸く黄ばみ生氣追々に減じて遂に全く枯れたり、之を園藝の學に精はしきものに聞くに餘まり毎日移植するが間だに根先の小根を損じたる爲めなりと云へり思ふに輕々しく外の土地を慕ふて容易に移すことをつゝしまざりしに由れる者と氣附いたり彼の度々學校を變へて先より先に移るものは即はち吾人と同樣の誤まりに陷いりたるものと思はる。

蓋し學校には皆なそれ〳〵の主義ありて各自尤も宜しき所と認めたる敎育法を施すならん其の間に就て精かに之を比較するに固より正當の法に適する者あり又不幸にして其道に適はざるものもあるべしと雖ども然れども何れも敎育に多少の考案あるものが熱心に盡力する所とあらば固より亦た多少の採るべき所なくんばあらざる也故に凡そ某の學校に入つて既に久しく其校に固有せる感化を蒙り其校に特別なる習慣を受入たらんには新に非常の不都合あることを發見せざる以上は成るべく茲に於て一と通りの業を卒ゆるを好とす然るに一朝乍ちにして之を去つて他の學校に轉ぜば假令ひ其校の都合は實際少さか前の學校に優る所ありとするも恰かも彼植木を移したるの當年殆んど其生長を中止せしむるが如く之か爲に一時學文の進步を止むるの損あらんと必然なり。殊に學校は新に設立したるのち凡そ一年内外を經過するにあらずんば到底一定したる敎育方を施すの運びと爲るまじきものあり故に此間に入校するものは例へば渾沌たる世界に身を投じて景色の相定るを待つの歎あることあり敎育を受るものゝ一身に取つて利益ありとすべからざるなり故に始めて學に志すものが始めて設立したる新規の女學校に入學するは吾人之を左程の損亡と爲さずと雖も既に餘の學校に在つて數年の苦學を爲したらんものが別に學校の新設せられたるを聞き其校の景況を聞き其校の評判を信じて乍ちに多年知己と爲れる學校を後に見るは寧ろ大早計に失するものと思はる宜しく其學校新設後一年内外の猶豫を爲し此間に篤と双方の樣子を比較し且つ彼新校の敎育方既に一定したるや否やを見極め而してのち校を變ゆべきや否やと思案すべし是れ實に安然の良策なるべし。

要するに吾人は女生徒諸子が尤も完全したる女學校に入つて茲に至當の敎育を受けられんとを希ふものあるが故にろの成るべく良好の學校を撰んで之に入學あらんとを望むものあり又た何如に多年在學したる所と云へども若し其校の敎育法當今の時勢に適はず或は寧ろ退步して到底進步の見込あらざる

に於ては斷然之を退いて早く相當の學校に轉じ少年得易からざるの年月を徒らに消費さるゝとなからんを希望するものなり此等二つの望みは眞に吾人が平生切に希つて止まざる所なりと雖も當今女生徒中往々輕々しく學校を變へて先より先に移るの弊あり而も自ら其の過ちたるを知らず父兄も亦た現今の敎育界に對しては殆んど盲目同然にして之を制止するの覺悟をも存せざるを見痛歎の思に禁ゆる能はず則ち此の一篇の注意を呈すると云ふ。

●論説

〇細君に告ぐ

左は編者が某處に於て演説したるを社員が筆記したるものなり今ま掲げて論説となす

私は生れて以來いまだ妻と云ふものを持つたとがない、また此後果して妻と云ふべきものを持つであらうか自分ながら甚だ疑つて居る所の偏人である。然し凡そ世に人の妻と云つてはづかしくない程のものは何如なる婦人であらう、また現今日本に善良なる家族を作りこれよりして眞正の社會改良を行ふの大切なるとはどれ程であらう、と申す樣なとに付ては多年信じて疑はざる所の考があります。故に今ま少々妻たるもの丶心得方と賢こい妻を持つたる幸とをお話し致しませうがどうか其言が只だ理論に流れず實際にあてはまるようであれば私の幸福であります。

昔しセントアウガスチンと云ふ人が申しましたに、太初此世に男と女と二人出來たる創世の時の事情を考ふるに若しも神が女をして男の上に立たせんとならば男の頭らより骨を取られたに相違ない若しも亦た女を男の足の下に敷かせんとならば定めし其の足から骨を取られたであろう然るに聖書に男の脇腹からして女の骨を拔き取つたと書いてある所を見れば男女は即はち同等のもので女は男に傍ひ之を助くべきものと定められたるであらうと云はれた。一寸つと面白ひ言葉かと思はれますが、どうか人の妻たるものは其夫の脇にヒタと傍ひまして艱難にも樂しみにも喜びにも涙にも戰爭の時も事務を執る間も常も共に與に在りたいものと考へます。と云つて私は始終くつついて居られよと云ふのではない、夫は千軍万馬の間に奔走し妻は家に殘つて負傷者の衣物を縫ふともありませうが、どうか其心を一つにして何事にも一處に伴なつて居るように致したいと云ふとであります。

成程その働き場所を申すならば男女は各々その働く所を異にして居ります、若しも亦た其働の効能の見ゆる合工を申しませうならバ夫婦もとより大なる相違があります、然し其働きは如何ほどに違ひ其の外見はどれほどに異なつて居りませうとも其實際に立ち入つて密かに内側を見ると一對の男女はつねに同様の事に働き一對の夫婦はいつも其仕事の効能を半分づゝ受くると云ふように至つてこそ、初めて夫婦と云へるものゝ上乘に達し神が此世に男女を作られたる御心にも適うとでありませう。彼の時計を見まするにセコンドは眞に急がしそうに走りまわる、長針は大足をひろげてすらり／＼と歩るいて行く、最後に殿りしたる短針は功をひろつてゆるり／＼と進んで參る、以上三つの針が朝から夕べまで晝の間でも夜の内でも人が運動する休息の時間でも四面深沈として空氣迄がチットまて休むと云ふ比でも始終運動して休みませんから茲よ何時何分何秒と云ふ時刻が分かる、大層に便利なるとで此世に時計がなくば一日もゆるりとする譯に參らんが、扨て此の時計の働らきは只だ彼の白ろい明るい表面に現はれたる針どもの働らきにのみ由つて出來るとでありませう乎若しも上ハ面にのみ現はれたるものを注意しましたらば時計の力ハ實に右三つの針に在りと云ふとであらう、かの男が世間に打ち出でゝ活潑の仕事を致し名譽勳賞を取つて大層に高ぶつて居るが之は何にも其男子の力に計り由るものでない、若し其の表面に在るものを一枚剝いで内側を見まするど何にも皆な一人のかげ坊子が附き添つて居る即ハち其家に愛すべき賢妻が居つて之を助け補くると恰かも時計の内部に種々雜多の入り組んだる趣向が備はつて居ると同様のものであります。

故に私は細君の徳を賞贊して蕭何の如きものと考がへました即ハち韓信をして背水の大陣を布かせ張良をして帷幄の内に謀を運らさせ高祖をして遂に漢の天下を打ち建てさせたる家の内の留守番かと思ひます、どうかあなた方も蕭何のようであつて其良人に大功を建てさする助けを爲されたいものと存じます。私等も隨分經驗がありますが終日外に出でゝ働いて日晩るゝ比ろ家に歸ります、此時躰は疲れて居る頭は痛んで居る何も煩ハしいように思はれ此上とても辛棒は出來ないと云ふように爲つて歸る時もあるです、然るに此時もし家族の人が喜こんで走り出で愛する所の妹や子供等が待わびたるようなる顏付をして歸りを迎かへて呉れませうならば終日の疲れは早や半ば飛び去つて仕舞ます、之れより兩親の恙がない

顔を見て今日一日の事をお話しを致し夜食后家族打よつて根もない事も面白く語り合ひます、其樂しみは眞に非常なるもので之が爲め一身ことごとく復活して明朝は新らたなる勇氣を以て勇さみ出づることです。之は私の經驗であるが之より推して今ま少しく好い妻と好ましき所の細君との爲され方を較らべて見て自身がどのように之を感ずるであらうかを省りみて申しませう。

扨て先づ右に述べましたる如く疲れ切つて歸ると細君は一向迎ひにも出て參りません眞にツマラナイことだとあきらめ乍ら靴を脱いでブラリ／＼と室へ通つて見ます、下女が驚いて漸やくお歸りと申しますが此の下女も亦た平生の仕付方に由つて甚はだ面白からん顔付を致すです、何は何處へ行つたかと問ふと先程お隣へ居らつして未だお歸りがないと云ふ隨分樂しからん仕打であるが、之よりもまだ一層甚はだしひのは夜晩くなりまして漸やく仕事を了り露けき路を踏んで家に歸りますとき、どうか内でゆるりと食事を仕ようと考がへて空腹のまゝ樂しんで歸ると、早やうたゝねを仕て一向頓着しません、或るひは歸ると直ぐさま面白くない談しを仕懸けます、家の内が大層亂雜に爲つて居て机の上の書物もバラ／＼ですどうも之れでは家に歸る樂しみもなく妻が在つても殆んど面白くない朋友を肩に擔ついで居ると同樣ではありませんか此樣なる細君は夫に立派なる仕事を爲さするの助けを致しませんのみか夫の首に繩を付けて之を後に引ぱり夫の腰に重りを下げさして其歩みを遲くし夫の頭の中に家の内の心配と云ふ一種のカタマリを作らせていよ／＼其憂を增さするものです凡そ何如なる婦人方でも決して此をお好みはなさらないことと信じますからどうか前申す如き不都合のないように在りたいものです。

然し賢夫人とも云ひ最愛の妻とも云はるゝ女方は之とは大層違つて居ります。夫は外へ出でゝ働らかるゝことと思へば家に居て能く留守番するは當然の事と考がへます、夫が疲れ切つて空腹であり乍ら能く忍んで居らるゝことならば家に在るものが之を待つて居て一處に食事するは當然の事と考がへます、夫は一日働かれたるものなれば家に歸られては成るべく樂しみの多い樣にならせたいと思ひまするから、能く家内を取片付け机の邊も奇麗にして只管ら夫の心を慰さむるように致します、たとひ留守中の用事があつても先づ夫が大抵疲れも減して餘程元の如くなられたるとき機嫌を見て靜かに話すことで

あらう、夫が何か心配をして居ますならバ強がち之を聞かんともせず先づ琴を彈じヲルガンを奏しなどして其心を樂しませ其氣を引立てゝ置いて扨て細かに其故を問うでありませう若し夫が大事業を爲さんとして何か家の事を心配するとならバ自分は何如ようの貧しき暮らしを仕ても決して夫の志を挫かない何うか思ふ存分に爲すつて下さいと申すであらう、其身に氣がねをして何か遠慮がましく見へるならバ特更に身を貶して先づ此丈けの辛棒が出來ると云ふ證據をも示めすとであらう、夫が何か調らべものを爲るならバ隨分自身も之を助けませう夫が何か研究に盡力しますれバ妻も亦た之に奔走して助けるとであらう。畢竟何事も夫と志を一つにして夫を助け夫を慰めまた夫を勵まして世に大事業を爲さすると考がへますが之れでこそ良人の脇腹に副へる賢婦人であつて世に妻と云へるものを持つたる人の幸福でありませう。

私は想像を運らして斯る良妻賢夫人を持つたる人の身の上を考がへまするに其幸福は何如ほどでありませうか眞に思ひやらるゝとです、有名の政事家にして且つ歷史家たるギゾーは其妻の助けを得て著作などを致したる人なるが嘗て其身の幸はひを述べましたる言葉に

私は是迄いろ〳〵と經驗も致しましたが何如なる大事業を爲しまする際でも常つも其の土臺となるは即わち一家内に於ける愛情である何れ程の赫々たる進歩を致しましても其事が若し家族とか朋友とか云ふものと關係がありませんならバ實に樂しみの少ないものである

と斯く申しました、又た有名の哲學者ジョンスチュアートミルと云ふ人は其著書自由の理の初めに題して書きましたに

我が著作中の宜きものは皆な妻の注意を蒙り又た半ばは其筆に依つて成れるものなり實に其の眞理正義を思ふ高尙の感じは私に尤も強き勵ましを與へわが著作を評して述るその賞め言葉は私への最上の褒美と爲つた眞に私の朋友でもあり且つ妻でもある所の人を實に愛し且つ悲しみて之を紀念せんと此書を作りたり

とあり又た其妻の石碑に彫みました銘の中に

若しも此世に我が妻の如き愛情と智力とを持つたる人の多からバ直にも現世は既に待ち遠うしき彼の天國と爲らん

と云ふ文辭が見へるミルの如き冷淡なる人にしても好い妻を持つたる樂しみは實に之れほどでありませう、又たカアライルの如き氣儘ものでも細君の愛情はとても忘るゝとが出來ま

せんハッチングトンに建立したる其妻の石碑に
四十年間眞人の眞實なる愛深き助け手とあり言葉に由り行ひに由りて之を助け凡そ眞人が爲したる總べての善き仕事をば爲させたり千八百六十六年四月廿一日倫敦に於て忽焉かの眞人より奪い去らる眞人一生の光全く滅しぬ
と書き付けました、又た彼の有名なるデ、トクウビルが其妻の事を友人に話しました言葉に
私が若しも正義當然の事を申すか又は行ひまするときは妻の顔に高慢なる滿足の樣子が現れて居ます私は實に之に勵げまされて其事を斷行します、然し此時もし私の眞心に責めらるゝようなとがあれば妻の面貌も亦た雲にかゝつて居る故に私は速かに之を止むるとです
斯る妻を持ちましたらバ夫の品格は日に日に進んで大層に清潔なるものとなるでありませう、此外米國最初の大統領ワシントンの妻が其夫に於ける、宗敎の改革家ルーテルの妻が其夫に於ける、天路歷程の著者ジヨンボンヤンの妻が其夫に於ける、近くはピーコンスフヒールド伯の夫人が其夫に於ける如き何れも皆な妻として能く其務めを盡されたるものであらう此等の人々の夫は定めし如何なる幸福でありましたか眞に羨やむべき所であります。
然し世の細君方が若し斯る賢夫人と同樣の心持を持たるゝならバ天下の男子はことごとく此の幸福を得ませう數多の男子は多くかのようなる立派の人となりませう必竟其責めの半ばはあなた方の中ちに賢婦人が少ない好い妻が乏ぼしいと云ふより外はありますまい、と云つて古來有名なる賢婦人の如くどなたも覺悟なさいと云ふは少こし無理のようにも思われませうが何も別段六かしひとは無い、一言にて其心得方を申しますればバ即わち能く其眞人を愛すると云ふとです、若しも眞正の愛が心に滿ちて居ましたらバ如何なる御婦人方でも必らず其夫を幸ひにし其家に福を來たし倘ほ其夫を立派高尚なる人物とならするとが出來ませう。昔しノーマンデーの侯ロパートの妻は夫が毒矢に中てられ今にも死せんとして眠りましたとき其愛すべき口を傷につけて悉とごとく毒を吸ひ取り其身は直ちに倒れて遂に其の一命を助けたです、世の夫人方が若し此の愛情さへ在らバ則わち既に眞妻賢夫人と爲られたるとでありませう。

"Either sex alone
Is half itself, and in true marriage lies
Nor equal nor unequal: each fulfils
Defect in each, and always thought in thought,
Purpose in purpose, will in will, they grow."

Tennyson

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〇婦女權利の沿革(其二)(特別寄書)　穗積陳重　講述

支那も之と同じことで、唐律明律などにも妻が夫を殺すハ十惡と稱する大罪の一なる惡逆の中に妻が夫を殺すことが加つて居りますが、併し夫が妻を殺す方は惡逆でハありません、又唐律にも毆傷妻妾者減凡人二等死者以凡人論とありまして妻を殺傷したる時ハ凡人を毆ちしよりは二等輕く、妻を殺したる時ハ通常の殺人犯でした、又明律の人命律も同じとて、夫毆死有罪妻妾の條にも、凡そ妻妾夫の祖父母父母を毆罵するによりて夫擅に殺死する者ハ杖一百とありまする又妻が夫を殺すは明律で未遂既遂共に死罪でありまするが、夫が妻を殺すは尊長が卑幼を殺すと同じことで未遂ハ故殺に二等を減じ已遂ハ故殺罪に依つて論じ、過失に因て殺すものは論ずる勿れとあります、兎に角女子の生命の價は男子の生命に比して法律上の價二三等も下り居しに相違有りませぬ。

次に我邦の法律を見まするど、新律綱領にも矢張り右の如き區別が立てゝ有りまして、毆死有罪妻妾の條に「凡妻妾夫ノ祖父母父母を毆罵するに因りて夫官に告けす擅に殺す者ハ杖九十」云々とありましたが、是は改定律例第百八十三條で懲役一年と改りました、又妻が夫を毆ちたらバ如何なる罪に處せらるかと云ふに、新律綱領の毆夫の條に「凡妻夫を毆つ者は杖一百折傷以上ハ凡鬪傷に三等を加ふ夫の親ら告るを待て乃ち坐す篤疾に至る者ハ絞、死に至る者ハ斬、故殺する者ハ梟」とあり、改定律例第二百二十二條に絞を改めて懲役終身と致しました、之に反し夫が妻を毆ちまするは折傷以下ハ論せず、折傷以上ハ二等を減すとあり、故に弱き妻が強き夫を毆ちたる時「夫の告るを待て論ず」とあるか故に若し其夫が「申上ます、私は女房に毆たれました」と云て出たらバ其罪三等を加へて重くし、若し強き夫が妻を亂打し折傷に至るも罪二等を減じました。

現行刑法には「祖父母父母に對する罪」と云へる一節ありて親族中の尊卑は明文を以て之を認めたれ共男女兩性間の尊卑ハ明文を以て之を認めす、概して平等主義を採りたる樣に思ハれます、只第三百十一條に、本夫が姦所に於て直ちに其奸婦を殺せし場合には其罪を宥恕すとありますが、之に反し、妻が夫の姦通の場所にて直ちに其夫を殺したるハ宥恕すべき限でありませんから、少し婦女の方割合惡しき樣でハありますが、然し妻妾を二等親とし常に「妻妾」と駢べ書して其同位を示し其外男女の尊卑を公認したる舊刑法に比しては大なる違ひで

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ありまして、我現行刑法は婦女の地位を進めたるは實に著しき事と思ひます。

右に述べたる事を撮んで申せば未開社會の法律にては婦女は物件にして未た人格を得ず、生殺賣買の權男子にあり、故に原始社會にては妻子を殺すも罪なし、社會漸く進むに隨ひ、法律の婦女の生命を保護するに至る、然れ共半開社會にては妻子を殺すは他人を殺すよりは其罪輕し、文明の法律に於ては最も親愛すべき妻子を殺す者は他人を殺すより其罪却て重しと申す趣意であります。

婦女の生命に關しまする法律の沿革は是れ丈けと致し、次に婦女の身躰の權利に移りませう。　（未完）

●叢話

○避暑の家づと（特別寄書）

去月中小中村淸矩氏の伊豆相摸に旅行せられし日記とて示されし中を抄出していさゝか此に擧ぐ

こゝのとせばかり程へて箱根の湯もとなる福住正兄のもとをとふ

いつか又聞かんと思ひし山水のおとをまくらにむすぶ夢かな

宮ノ下にやどりせしいぎりすの國人ちやんぶれんをとふぬしはよく此國の詞づかひをさとりてわが古き書どもゝ何くれと讀たればよきかたらひがたきとなれり

へだてなき友とはなりぬ言の葉もこゝろもかよふ西のくに人

あしの湖に船出して遊ぶに塵ひとつあらで深き處は紺靑の色なして水のおもいとたひらかなり

あしのうみの蘆さへみえずうち廻る山根によする八重の敷浪

伊豆の國修善寺村はふるく桂谷といひて靑垣山のたち廻れる所なり道のかたへに淸き谷川のたぎち流るゝを桂川といふ其川中なる大岩のもとより温泉の湧き出るをもろ人のたゞちにあむるなり

山のはにゝほはん影もまちてみん月のかつらの谷のやどにて

かつら川かつら男やさよふけてひとり湯ぶねに影ひたすらん

修善寺はやどりせし家とたゞ垣ひとへをへだてたる程なりければ鐘の聲もたゞ枕がみなりこゝは昔源の頼家範頼のふたりとも常ならずうせたる所なりければ

松風のふく音きけばいにしへにはかなく折れしふた枝をぞ思ふ

韮山なる江川氏をとふ此家の厨は五六百年ばかりの昔作りたるにて今もさながらなるが立木のまゝをたゞちに柱

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

としたるさまなどいとめづらしきに
眞木柱ほめて千世にとことほぎしたくみのまことしるき宿哉
熱海にて海水浴といふ事をこゝろむ
うちかづく人の病もうせぬべしよせてはかへる波にひかれて
日金峠に登りし日はことに晴わたりければさはる隈なく
よく見わたされけり
日かね山のぼれバしろき富士みても都のそらぞまづ仰がるゝ
伊豆の山に近き走湯といふをよみて思をのぶ
流れてハ年の早瀨となりぬべしひま行く駒もはしり湯にして
伊豆の神社にまうづそのかみ立なみけん僧坊もなくていと物さびたり
みづ垣の久しき世をもしのぶかな今もさかゆる山のなぎの葉

○秋夜の怪談　（第二）　櫻田　ゆかり

よもぎが元の虫の音も更け行くまゝにさへ渡り、秋風の音信は庭の千草にそよふきて、露に宿かる月影を、散らす景色の面白さにゆかりは夜の闌たくるをも知らず庭面をあちらこちらとそゞろ歩きする内に今迄盛りなりし蟲の音の一時にドッと鳴止みしにふと四方を見廻せば不思議や傍らなる立樹の元に人影のおぼろげに見ゆるあり、さては必定曲者ならんさりとて取る物もなき我宿へ忍入らんとするは憐れ目なし盜人とや云はん、何はしかり弱身を見せては惡しかりなん先づ近寄りて尋ね見んと傍らへ歩み寄れど逃げんとする樣もなくかへつて此方へ進み來るに何となく薄氣味あしく月の光に何者ぞと眼を定てよく見れバ一人の老翁なり頭は雪よりも白く額に波を寄すれども容貌温和にして威嚴あり鬚は垂れて胸を過ぎ仙骨逞ましく身に鶴氅を纏ひ手に杖を携へ足に履を穿ち漂乎たる風姿一見其凡ならざるを知る、近づくまゝに手を擧げて招くものゝ如しゆかり恐れ半ばにして進み寄れば彼の翁笑ましげに余に對て曰ふ吾れは怪しの者に非ず今は月宮殿に仕まひをなせど昔しは文王に從て計を廻らし策を建ぜし太公望其人なり今夜は月の光の淸らかなるに誘はれて久しぶりにて下界へくだり計らず汝に出會せりいざ物語して樂まん近ふよりねと曰はるゝに余心中に思ふよう然てはその昔し張子房が圯上の橋にて叱られたる癇癪持の翁が類なりまづ其機嫌を傷はざるこそ專一なりと急に腰を屈めて申すよう私事はゆかりと申して女權伸張の見世を出し、女子の品位を高んと細き腕をば振ひ居るものに候、されどこの大任をなか〳〵仕遂る力とてはなし憐れ翁の履の脫たらば幾度なりとも拾ひ取りて捧、

ぐ可きに六韜三畧は薔奥し何とぞ今少し開化したる敎へを授け賜はんや千歳の一遇にては候はず三千歳の一遇なり又あるべきの機會わらず是非に敎を垂れ賜へと迫りければ、太公望は迷惑げなる顏色してやがて語り出づるよう御身は女學の主義を擴張せんとするか、我身は既に老果てゝ今時の若者に語り聞かする言葉なし、然りながらわまりに切なる賴み故昔話しを聞かすべし長くとも聞賜へ、命長ければ恥多しとか我身なまじに仙人となりし爲め思はぬ恥を受くるにこそ今は女の位置も進みなかく馬鹿には出來ねども我身が下界にありし頃は女と云は器械も同樣、壓制しては逐ひ使ひ、無理難題に苦しめたり渭水に釣を爲せし時妻は傍より口嵩ましく直なる針にて朝まだきより如何に骨をば折たりとも雜魚一匹得物やあらん鈍なる業なし賜ひぞと止むるが眞なり他人の目より見る時は狂氣とも思ふ可し、それを聞かずに離別せしは此れ我身の實なきなり、後の事をば思はざる愚か者よと心の中に笑ひしが、笑ひし我れが愚かなり、車の上より覆水盆に反らずと叱り付けたる我身こそ浮世の人情を辨へざるの誹あり、近來外國人の夫婦連れが睦ましげに道を歩み家内の內に平和のある事など天上より見下して羨しくも又恥かしゝ、今にして三千年の非を知れり、さりながら妻たる者も今少し夫に仕ふる道を知らばこの不幸はあるまじく今の恥じは受けまじものを、これと云ふも互々の氣心を知らざるうちに夫婦となりしが身の誤りと、明けはなしの御談議にゆかりは心中に嘲笑ひ太公望は今少し智恵者であると思ひの外つまらぬ愚痴を言ふ人よ夜も大分更つらんにいざ歸らんと立上れば傍らの木蔭より甲冑に身を堅たる法師武者の暴々しきが滿面に怒氣を顯はし、眼を瞋からしゆかりを睨んで立たりける。

○密室にて香を燒く事

深窓の內に垂れこめて香の煙りかほりゆかしき、など云へば眞に優に思はれて慕へしきようにも聞こゆべし左れど之は衞生上甚はだ愚かしき仕業と云ふの外なきなり、何故と云ふに鼻は天然の番兵とも申し身躰の爲め至つて大ひなる働を爲すものなり例へば室內に何か惡しき氣あるときは直ちに惡しき香ひを嗅ぎつけて早速に之を頭腦に注進し早くその用心せよと云ふものなり左れば鼻の力にて室內の惡氣を感じ扨て窓をも開け部屋をも掃除するなり衞生上莫大の効能を爲す基ひとなるべし然るに今ま香を燒きて常に部屋の內を香はせ假令ひ惡氣の忌むべきものありても鼻にマヒナヒを遣ひて其力を迷

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はし置くゆへ頭腦も注進の至らざるに安心して其儘に閉ぢ込めたる室内に躰を置かするあり眞に不養生の事にあらずや左れば深窓焼香など云へるは甚はだ風流に聞へて實は尤とも愚らしき行ひなりと承知すべし。

○乳母を撰む一つの注意

乳母を撰むに付ての心得方數多あれども其の一ヶ條として心得置くべきは、もし乳母に小供あらば其兒と當方の兒との年月大抵同じ程あるを要する事あり。何故と云ふに母親の乳は其子に取りて色々都合よろしきように出來て居るものあるが中にも赤子の生ひ立ちと同樣に母親の乳汁にも相應の變化あるべきよう備はり居ると實に驚くべきとあり例へば極めて幼けなき時には母親の乳も亦た其比ろ之に適するよう餘まり濃からぬものあるが其後赤子の生ひ立ち行きて段々成分よき乳汁を要するに準じ母親の乳も亦た其ように變はり行くものなり造化の妙工不思儀と云ふも愚かあるべし然るに今ま乳母を擇まんとして例へば八ヶ月前に子を産したる婦人を雇ひ入れんに當方の子もし一二ヶ月の生ひ立ちならば即はち此后半年も立ちて先きに飲ますべきほどのものを此時に飲まする割にて甚はだ順序を誤まりたるのみか恰かも齒の出來ぬ子供に牛肉を食べさする如く其品は何如に滋養ありとも腹中に入りては反つて害を起すものとなるべし故に乳母は當方の母親と大抵同じ比に兒を產したる婦人にてあるべきを規則とはするあり。

○批評　（第三十一回）

(41) 經國基本 一夫一婦論　（中本一册（百八頁）定價金三十錢 發兌所山梨縣甲府常盤町内藤傳右衛門）

此書は依田孝氏が當今一夫一婦の制の行はれざるを慨歎して第一章道德及び法律の貫通何如と云へる所に筆を起し婦女を卑しむる勿れ婦言事を爲す婦女男子を責む等の箇條を説きて終に第十五章泥中の蓮花と云へる所に筆を收められたるもの也文章はあはだ漢文めきて稍や解しがたく一躰の趣きも亦た餘り西洋の風に豐かあらざるかの如く思はるゝにも係らず斯く當今に切要なる一婦論を痛議ありたるとは謹んで女學の爲めに謝せざるを得ず。

(42) 女權美談文明の花　（中本一册（百六十二頁）定價金五十錢 發兌所東京通四丁目金櫻堂）

此書は杉山藤二郎氏が女子に參政權を附與すべきとを主旨として作られたる小説あり大坂に一箇の女學生あり櫻木お花と云ふ兼ねて女權の伸びざるを歎じて慨慷啻ならざる間にも平生男女同權論の是非について疑を存する所ありしに一朝彌生

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

春三郎が女子改良演説會に於て（男女同權にして夫婦同權に非らず）と云へる演説を爲したるを聞き豁然として悟り之より讀賣新聞朝日新聞等に投書して毎々女權の擴張を痛論したり後ち幸にして此の春三郎を婿に取り夫婦共力して女權擴張新聞を起し且つ春三郎遂に國會議員と爲つて女子に主撰權を授くるの議を呈出し初回に敗北して次に大勝を得ると云ふ眞に目出度所に卷を終れり」之を小説として見れば眞に淡泊なり之を議論文として見れば少と骨なきが如し則ち著者の望まるゝ如く之を小説とし亦た議論として見るを以て宜きを得たるとす。但し夫婦異權と云ふ事、花孃が婿を擇む前後の躰の事、及び歐米諸國に於ける女子參政權の事、等何れも大に異論を述ぶべき箇條あれども暫らく之を略す。たゞ時々奇抜の論ありて讀者を驚かすの處ろ或は之れ著者が尤も得意とする所ろか吾人が此書に服するもの亦たゞ之れのみ、然れども當今すでに女子參政權の事を骨子としたる小説の世に現はるゝを見る實に女學の爲に祝せざるべからざる也

（43）實地應用　家計簿記法例題（中本一册（七十五頁）定價十八錢　發兌所東京弼左衛門町經濟雜誌社）

此書は藤尾錄郎氏の編著にして曩に出版されたる家計簿記法を實用せんとて各の帳面に記入すべき例題を集めたるもの也

（44）女學叢書　木村鐙子小傳（中本一册（三十四頁）無定價　發兌所東京日吉町八番地女學雜誌社）

此書は巖本善治が明治女學校生徒の爲に木村鐙子の小傳を叙したるものあり本社出版の書なるが故に例により之を評せずたゞ左に自序を掲げて讀者の一覽に供ふ

余が鐙君に於ける實に母子の情ありき是れ血肉に縁るに非ず但だ信愛の致す所なり君逝き一歳亦既に去る万斛の感盡すに辭なし此時恰かも明治女學校新築の校舍成らんとす一泣一喜則ち玆に鐙君の小傳を叙し之を我校の生徒諸子に與う諸兄が序跋は元と本書の爲にせざるものなり但だ鐙君の德を發する彌よ明あらんことを信ずるが故に謹んで之を卷端に掲ぐと云ふ

右小傳を無定價とする事元來生徒友人へ配布したる殘册を望の者に呈する義に付一册十錢郵税六錢を送る方には一册郵送すべし

"*She that liveth in pleasure is dead while she liveth.*"

Hannah More.

むかしアン、ヂヤッドソン夫人と云へるは傳道師として外國へ出でたる婦人の先がけなるが嘗てハンナモアが「樂の中に生くるものは卽ち永く死するの人なり」と云へる言葉を讀みて始めて敎の道に心を傾むけたりと云ふ

"*Women govern us; therefore let us render them perfect; the more they are enlightened, so much the more shall we be.*"

Sheridan.

● 佳傳

○女丈夫の傳　（其二）

ジヨアン佛國の滅亡を救ひたる事

彼のアークのジヨアンが將に滅亡せんとする佛蘭西の運命を既に倒れたるの後に反へし英の大軍を追退けて佛皇を帝の御位に即かせ奉つりたるは今を距ると四百七十年前の事なり然れど今に之を語りつゞけて東西ともに嘖々し女丈夫と云はゞ先づ指を此の乙女に屈すると蓋し凡ての讀者の承知さるゝ所あらん生れて以來十八年農家の煙に育てられたる賤の女が乍ちにして手に寶劍を握り自ら千軍萬馬に將として敵兵を蹈散らすと云ふと眞に神妙不思議のかぎりと云ふべきなり但し其終りに至り辜なきの罪を負はせられて果敢なくも燒台一片の焔の中に滅しぬ之を殺して顧みざる佛國民の心中また思議すべからざるの至りと云ふべし、然れど後ちジヨアンの遺族を貴族に列し其の出生の村に年貢を免し且つ之を燒殺したるロウエンの地に紀念の像を打建てたるは此の愛國者の靈に對して切てもの慰さめなるべし。

ルイ、ラーベ文武に達したる事

三百五十餘年の昔し佛國リヨンにルイ、チヤリー、ラーベと云へる一女子生れたり音樂語學を好みて亦た乘馬擊劍に達す十六才の時佛軍がペルピグノンを圍みたる折軍中に混じて屢は戰功を奏しカプテン、ルイとして名を知られたり、然るに佛軍一朝に圍みを徹して急に退き去ると爲りしかばルイも亦た軍服を脱して再び兵器を執らず之より著作に從事して數多の名文を草し尙ほ三ケ國の國語を以て詩歌を咏じたり中にも千五百五十五年に出版したる其著書は其後二百年を經て世に再版せられ非尋常の喝釆を博し得たり、

パルモノ夫人亦た文武の名人の事

是も亦た佛蘭西の女子にして初めエルンコーア孃と云へりしが元來戰さ事を好みて平常よく劍を弄あそびたるが彼の三十年の戰と云へるものゝある以前大佐パルモン氏に嫁したり然るに此の大戰爭の時大佐は帝黨に加はりたれば夫人も亦た夫を助けて連りに謀畧を運らし嘗ては其出生の村を固めて一箇の城壁の如きものに仕立てホンガリーの軍勢なんどを手ひどく防禦したり、左れば千六百三十六年即はち夫人が二十八才と云へる年に夫人とガイタウト侯との間に激烈の戰爭あり夫人は重傷を負ひたれども遂に侯の軍を退ぞけて其村を保護したりと云ふ、斯て戰ひの了りたる後は身を全く文事に委ねて悲曲の院本を作り其才名を擧げたり。

アゴスチナ常に苦戰したる事

當世紀の始めの比ろスペインのサラゴーッサ固く佛軍に反向ひしかば大將レフヒブル命を請け行いて之を攻む元來サラゴーッサの都たる四方に高さ十二英尺厚さ三英尺の柵壁を周らし内に零落したる寺院家屋あり人民僅かに六万常備兵漸やく二百二十人軍器は舊びたる大砲十門の外何物もなしと云ふ眞に憫れむべき有樣なれば遂に勝ち誇つたる佛蘭西勢に攻寄られんには一と支へもせず直ぐにも落城すべしとい見へたりける、然るに相對して此の方早や二ヶ月も過ぬるに城兵が愛國の熱情に迫りて防禦するの勇氣殆んど當りがたく中々之を拔かんとの望もあらざりけり、漸やくにして黄金若干の賄なひを以て離間者一人を迷いし其裏切によつて城内の武器藏に火を放たせ其圖に乘じて攻め寄せたり此事不意に起つて火焔後ろより迫り來れば諸門の番兵も早や防ぐの勇なく死するもの相重なり北ぐるもの亦た踵を接して殆んど修むべからざるに至れり、此時只見る眞白の軍服いかめしく着なしたる纖娟の一女子突然寺院中より走せ出で丶敵兵の群がり來る柵壁に登りどうと倒る丶鐵砲方のマッチを握り取り之を火口につけて大砲を發射し「死せざれば勝つべし」と號び乍ら亦た丸をこめて再應發射せんとす、アゴスチナ万歳進め進めわれ等は勝利ありとの聲四方に起りて城兵一度に盛り返したれば佛軍其勢に當りがたく遂に亦た退いたり、佛將レフヒブルは城の到底拔きがたきを察し寧ろ長圍の策を以て城兵を餓へしめんとは計りぬ然れどアゴスチナは日々軍兵を指揮して激戰し戰の最中にも兵士の危急に陷いれるものを見れば單身飛び行いて之を救ひ又た陣に歸つては負傷者を見舞ひて之を看護し病みたるもの饑へたるものは厚く遇して之を慰めたり、斯てレフヒブルより和睦の申出あり城の首長パラフホー之を迎へて相ひ議するとき傍らにアゴスチナ侍べりて之を聞きたりパラフホー之を何如にかせんと問ふにアゴスチナ答下の如し云く小刀を用ゆるまで御戰ひあれと。

和睦の議遂に成らざればこれより一層の激戰あり十一日が程は彈丸雨注し砲聲雷の鳴りつ丶くるが如しアゴスチナは日夜各隊を巡見して少さかも油斷なく常に尤も苦腦すべき軍務を執つて怠ることなかりき然るに八月十七日に至り佛軍は長日の圍みついに効なく漸次に兵を退けて全く軍を徹したり防禦の功半ばはアゴスチナに在りと云ふべきか然れば何物を以てか其功を賞せんと問いれたるとき妾にもし銃手一隊を賜ひ且つ常に軍服を裝ふの特許を得ば幸甚なりと答へたりける。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

●小說

○薔薇の香

第十一回　來れかし　月の舍　しのぶ

遠見の富士の山は夕べの雲を貫ぬいて奇峯の脈を通じ一天の太氣沒日に照つて快ちよく紅かし庭內の樹々は青きが上に墨色を彩どり來りて噴き出だす泉水は白き玉を放散す、とは靖國神社夏の夕の景色を早取に寫したるあり元來公けの庭にして死せる魂を招くの園と云ふ好し戰死者の靈は或ひは會津田原坂にさまよつて此に來らざるとも之に緣遠き生者ひま人文人俗客書生官員に至るまで皆な自分の作り庭の如く心得て遊び來ると亦是れ文明の餘澤ならん李白は生前一杯の酒に如かずと云ふ都人も預じめ此に遊んで他日の勘定を濟まし事に臨んで國の爲めに敢死せば幸ひならん。

然れど今ま茲に來り遊ぶもの必らずしも斯る理屈らしき考のありてにあらず夕飯も濟み暑さも減じ少と運動が爲て見たいと云ふ目的なしの男女老幼庭の內をブラリ〳〵、椅子に腰かけ茶を持參せられて慌てゝ飛び去る書生もあれば手を叩いて麩を投げて緋鯉の口を見て欣喜するお孃樣もあるべし此の幽邃の地に斯くも雜沓せられてはと歎息する支那流の文人あれば人工の景色は嘔つくとを促がす計りと辨論する美術士もあるべし。然るに余が目に止まりて殊に面白く見へたるは薄茶脊廣の洋服當世風に行わたり同じく濃茶の帽子商人と見られて少と奥床かしく髯も少々はあり目鏡も眞のかざりに懸り卷煙草の煙も香ほひを凝めて人物を示しステッキ持つ手の指環はピカリ〳〵と光かりて虛飾に念の入りたるを證するが老人に連れ立つて行く書生風の娘を見止めて急に足を早やめ殆んど近づいたるときチヨット帽子をさわり目鏡を壓し咽の奥にてエヘンと咳ばらひし乍らワザト磨れ違つて行すぎ

ヤ、コレハ、どちらへ、まことに暫らく……デア御運動に、どうも夕方は好う御座いすチー

眞にお久さしうお目に懸りませんでイエモウ年を取りますと頓と目がかすみまして、ソレにあなた晩方は殊に見へませんのでツイ〳〵失禮を

どういたしまして、お香さん大層長く入らつしやいませんでちとお歸へりにお寄り下さい

ハイ有がたう御座いますお光さんは

少こし頭痛がするとか申して居ましたがどうも近來は何だ

お勝れなさらないで困りますよ

そうで御座いますそうでネあなた大方御勉强が過ぎますのでせうがどうかハキ〳〵なさいますれば宜しう御座います

今朝もネー學校で急に顔色がお變んなすつて大層に心配したのよ姥やはモー長くお目にかゝらないでせう餘程おやせなすつたよ

そうで御座いますかそれでは此から一寸つと御見舞にネー

お孃さま

お見舞下すッては恐れ入りますがどうか少つとお寄下すつてお茶でも、それにモウそうで直き其處ですから

先程こちらへ參ります途でナニソレエ靑…靑山さんにお目にかゝりましたらば之からあなたさまのお宅へお出でと仰しやいましたがモウお歸りなさいましてですか

アヽそうですかナ一向存じませんデ（來なくても好いにと云ふ顔付をして）ソレジャア那んでせう出ました後へ惜しひとをしました

姥や今日はモウ晩ひようですからまた此の次に上るとをしませう

左ようですかそれではあなたどうかお光さまへよろしう又とき〴〵は私方へもお出下さいますように少こしは御氣分も晴れませうからどうかネーお大切になさいますように御面倒さま乍らよつくお傳へ下さいませあなた

ハアかしこまりましたイヱ何に別段の事ジャアないですが兎角近來はそわ〳〵としましてネ大層氣分が引立つて居るようであつて而して急に何か考へ出しては頭をいためますのでハヽヽ實はネその靑山君と最う約束も濟みました樣子で近くに取極まると云ふ程ですからモソット丈夫に爲つて呉れますと宜しひのですが兎角その弱いものですからイケマセンネ

左樣ですかへヽエー靑山さんと……それはマアお目出度ことでイヱ私共からお見かけ申しましても眞とに能うお似合いなすつて居らつしやいますからそれはマア結構なヿでお目出度ヿで

眞とに似たもの夫婦でしてネ光さんも隨分偏人ですが靑山も人に聞こえた變はりものですからマア〳〵その好い釣合ですネ然し昨日も大學で皆で笑つたヿですがあんな變はり物が能くも細君を持つと云ふ氣に爲りましたネ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

然しなか〱能くお氣のお附なさる方でそしてなか〱能くお行き届きなさいますが

エ、ソレハその元來餘程神經質ですからあの樣に迂遠な中にッマラナイ事にまで心配しますテ

老人は此の意地惡物と云ふ心で負けぬ氣になる、少年は何に青山がと云ふ風で鼻に掛け乍ら始終娘の樣姿に注意する、香はギクリ〱と打たるゝ胸中の釘を心でこぼす涙を以て濕して居る、それには關係せず瀧の水は靜かに音をして池に流れる鯉は欸が無いから水面の虫を目がけて飛び上る日もだん〱と暮れるから人は追々と歸つて往く

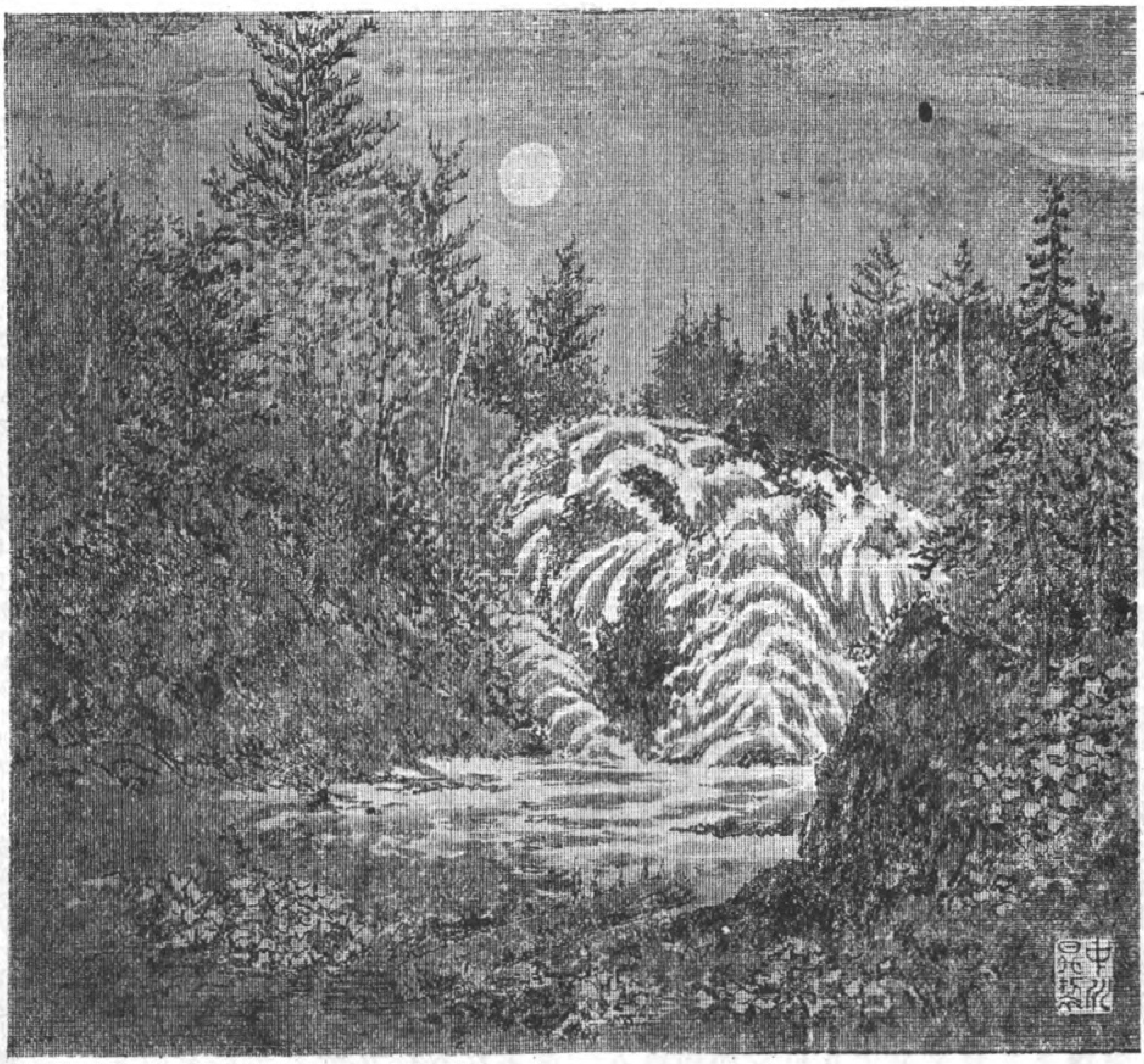
婆やもう歸りませうか

それではれ寄になりませんで眞に殘念ですがどうか又その內然しどうせ其處まで御一處に參りませう

ナニお香さん矢張日々學校へ…ハアそうですか近來は餘程御上達でもう御卒業にも間近くなりましてどうも驚服の至りですテ

ナンデスカ相變はらず同じ樣の事ばかし致しまして

どうも此頃は女子教育の事が大層盛んになりまして此からはもうあなた方の世の中ですテ青山も近來は續々女權論を主張しますが然し私しの考では余まり權利とか何とか申



さあいで靜かに進歩を期した方が善いかと思ひます先達ても内務大臣の宅で之を痛論し升たとで兎角之が爲め學文のない女までが生意氣にありまするのが余まりぞつとしませんナハヽヽ

左樣で御坐いませうネー

所ろが過日のメールにも在りました通りで兎角改良々々と云つて何もかも日本在來の女風を變へて仕舞ふのはどうも宜しくないとて之は私もブリンクリー君と全く同說ですが過日も靑山と烈しう議論しましたよ靑山は時々非常お考へを出しますがどうも大抵迂遠なのに困りますよ

お孃さま此方へ參るので御座いませう山内さまそれでは之れで、どうかくれ〴〵もお光さまへよろしう

左樣ですか眞に失禮いたしまして此次は是非御ゆるりと左樣なら

どうですお孃さま口の惡るは好かない方ですネー、(振り反へり乍ら)コレ聞こへるのよ

"But the proudest lady that ever was known is this little lady of mine".

J. Westwood.

●寄書

左の一篇はウヰリアム、エス、ナイラー氏がモントホリフーク學校に於て爲せし演說の大意を抄譯したるものなり(七月三十日ジ、ユニワンシグナル雜誌)

婦人の未來

中川永輝

過る五十年に於て事物の變遷せしこと古來未だ其の比を見さる所にして世人をして斯くまでも變遷せしかと一驚を喫せしむるほどなり而して此の變遷たる皆眞の方向に進歩せしものなることハ世人が一點の疑を容れさる所にして余輩ハ未來を追想し今日より先き五十年間には如何なる變遷をなすか又此の變遷たる愈々大に且つ眞の方向に進行せさる可からずと斷言するなり凡そ開明ハ婦人の勢力が一國民或ハ或る時代に增加すると相比例して歩を進めり而して就中我が米國の如く婦人の勢力著しく增進せしことハ何れの時代何れの國民にても其の比を見さる所なり彼の有名なる文明史の著者バックル氏曰く婦人の高尙なる教育を受くると及び或る時代に於て大發明者大學者及び大技術家なりと云ふを得すと雖ども婦人ハ現在其の勢力の增加することハ社會の大に進歩せし徴効なり如何となれバ婦人ハ其の所謂大發明者大學者及大技術家を生みし母及其の教育者なれはなりと夫れ古今の史を通覽するに豪傑の士と稱せらるゝの人ハ必ず其の母賢明眞良の聞へある婦人にして幼時保育の際より其の母の天性々質を讓り受け即ち豪傑たる可き性質を其の母より受くるものなり婦人の社會に對する責任亦重しと云ふ可し現今獨逸の著者中に說を爲す者あり曰く彼の希臘人羅馬人及びチュートニック人種アッシリア及び「ポエニシア」人種ハ婦人の姓質を具へり言を替て之を言へハ國民中慈善に且つ宗教心に富みたる人種なりと夫れ男子の勇氣と剛强と婦人の柔和と相合同することハ神が吾人に教へし性質にして吾輩ハ男子の勇强と婦人の柔和と相待ちて初めて不充分なる子弟を保育す可くして是れ即ち神の意なりと云わんとするなり男子の勢力と婦人の勢力と相一致合同せんことは(東洋幷に古代の歷史に於ける如く男女兩性の懸隔甚しきと違ひ吾輩の大目的にして而して余輩ハ今日に於て已に其の形跡を實見し後來に望み多きものなり英國歷史中特に世界の歷史に於て最も光輝ある隆盛の政治ハ女皇在位の時なりしエリサベス女皇アーン女皇ウヰクトリア女皇現英國女皇陛下の如き是れなり此等の女皇ハ吾輩の母國たる英國が文學上社會上及び政治上に於て最も光輝ある時代を顯わし且つ英國人民の最も幸福に生活せし時代なり試みにウヰクトリア女皇の政治とジョージ王及びウヰリアム第四世の政治とを比較せよ其の治績に霄壤の差ありて上帝ハ女皇に幸福を下し賜ひたり女皇陛下の版圖ハ廣大にして日没を見さるにあらずや世界人口の四分之一ハ陛下の人民にあらすや而して其の版圖たる自由にして諸法律整頓し公平にして慈惠の一大帝國なりとす過日英國人民が女皇陛下の第五十年期に盛大なる祭典を擧行せるハ尙は吾輩が今日此校の第五十年期を祝するに同しく此二の者ハ婦人が社會に勢力を得及び其の主權を皇張せしことを代表せしものと云ふ可し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

般の事實として婦人は温和菅眞純粹慈善にして且つ禁酒平和節儉等の諸美德に富み而して宗教に歸依し德義に深ければ一個人の並びに社會の愛を引く多し故に其の社會に對する勢力は無限なるものあり
ウヰクトル、ユーゴー氏云へることあり曰く第十九世紀は婦人の世紀なりと左れば更に進んで第二十世紀に至れば一層然るならんと思わるゝなり余輩は斯の如き社會に生活せんことを欲するなり使徒約翰が未來を豫想したる詩に「余は大陽に於て立つ天使を見たりと」世の註解者は右の詩句に如何なる見解を爲すかわ余輩の知る所にあらずと雖とも余輩を以て之を見るに右の天使は吾輩に現在及未來の時代に於て教育を受けたる神聖なる耶蘇教婦人を顯わしたるものなり婦人が信仰に德義を加へ德義に智識を加へたる時代の婦人に譬へたるなりと云わんとす左れば婦人が未來に於ける其榮多々なるものと云ふ可し云々

〇衣食住の内衣　　島田修海氏演説

左は曩日頌榮女學校に於て演說ありたるを筆記したるものなり今ま貴社に寄せて姉妹方の覽に供ふ　　速記法研究生

私は衣食住の話を致します第一に着物第二に食物第三に住居で御座います着物と食事と住ひと三回に話せば宜しいと思ひますから今日は着物の話をしやうと思ひます其着る物も御婦人方の着物耳に就てお話しゝます
元と衣類の事は衛生に適しまするのと形容に適しますのと二樣から成り立ちました者で御座います故に形容に構ひません土地所謂黑人の住し處に往げば今頃の樣に熱い時には赤裸で住います日本などの樣な開けた處は何程熱くも裸躰では居られませんから是は形容で有ます衛生から申しても赤裸では必ず悪く御座ますから着物は眞に開けん土人の外の是非着なければならんもので御座います夫に付き日本の御婦人方の着物は何時から更りましたか近頃は西洋の服が流行りますので餘程變革して參りましたが今見る處では髮程着物は變りは御座いません衛生の事に就て日本在來の着物と西洋の着物と何孰が宜しいかと云ふ事を吟味しなければなりません今實吉先生のお話の通り子供を壯健にするには母親を健康にしなければなりません夫には運動が第一で御座ますが運動するには身躰の拵へ方が專一で御座います働く者は尻を端折るとか襷を掛るとかしなければなりませんが西洋の服は餘程便利で御坐います是は彼方で段々經驗の上改良したので御坐います日本服と形ちは違いますが實際宜しいので御座います第一身體を活潑にするに適當で御坐います第二に洗濯に宜しう御座います洗濯は今迄の日本の風なれば今日の樣な暑中には能い着物なれば數寄屋とか越後縮とかで御坐いませうがそれには下襦袢を着なければなりませんが形容を裝いますから下襦袢には赤い縮緬を用いなければなりません縮緬に色を着けたものは西洋の白い襦袢の樣に一々洗濯すると云は出來ません故に餘程上等の人なれば二度か三度で取更へますが通例の人は緋の長襦袢などを長く使ひます西洋では襦袢を直ぐに洗濯しますから身體に宜しう御坐います

其次ぎは日本の在來の着物で婦人はついたけの着物は着ません少し丈の長い腰の處へ折かへ紐で卷て居りますが是は私が醫者で云ふと大腿骨と云ふ骨に穴があつて夫に足の骨が通て居て足が動くとが出來るのであります然るに帶を締るには其關節の上を締ますから十分に歩くとが出來ず自然女は内ワニが宜しい樣になつて居りますが靴を穿く事になつては内ワニでは歩けません造物主は歩ける樣に身體を造つてあるに其骨を締つけて居りますから充分に動けません故に追々に服制を更めた方が宜しい服制も歐羅巴の樣に婦人の服に美を爭ふ樣になつては限りが有りません六ヶ敷事には二人の女が有ては一方は百圓の服を着し一方は自分の國で出來たものを拵らへて着たのでは一緒に出られません故に衣服の制度を立るのは六ヶ敷御坐います我國の　皇后陛下も仰せられましたが大勢で着る時の服は六ヶ敷事で御坐います然し一人で出る時は宜しい先づ私共が家内に洋服を着せ樣と思ひ日本の服を拵へる者と西洋の服を拵へる者と兩方から精密の調べを出させて見ましたが差ひは有りません却て日本の服の方が高い位で御坐います然うすれば追々皆樣も洋服を召したり子供にも着せる樣になれば洋服が多くならうと思ますさうなれば洋服の事に就て今の娘子達から精神に確に留て置て貰ひたいとが御座います御宗旨の御話でも私の話でも面白く有ませんが一ツ宛でも覺へて下されば爲になります夫は西洋服の胸から腹へ當てます「コルセット」で有りますあれは今迄の叙術遣ひの胸當の樣なもので御座いますが先年私共が大學に居る時人身究理で大變八ヶ間敷言ひましたが西洋の婦人の身躰を見たとがありません倫敦の婦人の形を見るに上が小さく胸から下が大きくなつて居ります日耳曼では其大きい者は長命を致し小さいものは壽命が短いとして有ります然るに美を競ふ爲めに反對になりました先達も或處で「コルセット」を締て若い爲めに宴會の席から途中で去た人が御座いました夫故に是を改め身躰と「コルセット」との間へ手が入る丈に隙間のある樣にしたいと思ひます尙又恐るべき事は「コルセット」を掛ければ六十日間に日本の金尺で一寸四分斗り身躰が縮まつたそうで御座います併し何時迄も詰るのでは有りません詰る丈詰れば詰りませんがどうしても掛けない方が宜い故に若し之を掛るならば間へ手の入いる丈にして置て貰ひたいと思ひます
又東京で見て大變悪い事が御座います夫は中以下の者に多く御座います酸漿を吹くとで御座います貴婦人達は自分で吹かんでも夫を認めたならばお止めになる樣にしたい人間の口を動かすのは頰骨と云ふが上の機械になつて口を働かせますそれが何故酸漿を鳴らすと悪いかと云ふ形容の上から言ても見られた顏色ではありませんそれもズッと美くしい顏なればどうか知りませんが少し妙な顏で酸漿を吹かれてはかなひません又衛生の方から申しても頰骨の働を始終拵しなか〳〵三度の食事どころではない起て居る間吹きますから頰骨が高くなつて上唇が厚くなつて來ますから見られた有樣では御座いません小さい小供がそう云ふとをすれば彼長く座れは座りダコの出來ると同じで其慣習が附きますから夫は人の吹くのを見てもお止めになる樣に願ひます行儀の上から言ても女のすまじき事で御座います植

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

物の酸漿はまだしもの事多くは海の虫で御座いますそれも酸で色を附ければ宜しふ御座いますがなんで色を附けるか知れませんから甚だ害になります
私は當樣なお話しを致しますから皆樣が覺へて置て戴きたい

● 新報

○科業のヒル子　日々勉學の最中暫時假寢するは腦の爲めに餘程宜しきものにて學問に勉強する人の常に經驗する所ろなり苟くも孔子流にて宰予をとがめざる以上は隨分に試みて善いと考へ居りしが横濱のフエリス女學校にては今度ヒル子の一科を設け午後晝飯の後ち四十分ブヽ休息して假寢せしむるとの規則を定められたり尚ほ暫時の實驗なれども生徒は之が爲めに惱痛を感ずると少く餘程効能多しと云ひ合ふもの多きよし也

○東洋英和女學校　麻布の同女學校教師スペンサー孃は去る七月麻布英和學校の教師ラーシ氏と結婚ありラーシ氏は此頃女學校内に引移りて住居せらる又た女學校一級生は理化學實驗上の都合ありて毎朝英和學校の方へ出掛し男生徒と共に該學術を修むるよし

○明治女學校　元と九段坂下公園内に在つたる同學校は今度坂上の閑地を見つくろい校舍を新築したるが此頃略ぼ落成したり尤も本月十日比より新舍内に塾生を入るゝ由にて夫迄は假塾を設け置かるゝ由に聞く

○東京婦人矯風會　同會の役員改撰は本月にてあるべき筈の處ろ來る十二月に建會の紀念會を催さるゝとの由にて其節まで之を延引さるゝ趣なり本號に附錄とせるものは即ち現會頭矢島かぢ子の肖像なり同子は右會頭にして尚ほ櫻井女學校の幹事を兼ねらる

○豐田芙蓉子　高等女學校教師豐田芙蓉子は今度德川全權公使に隨行して伊太利へ赴き學術を研究する由にて此程同校の女生徒一同は女史を小石川の植物園に招待して盛んなる送別會を開きたりと

○丁亥會　海軍々醫諸氏其他の有志者が毎月水交社に於て催す踏舞會(丁亥會)は暫く中止の姿なりしか再び來月一日より開會すると云ふ

○愛知女學校　名古屋高等小學校内に設置したる愛知女學校は來る一日開校式を執行する由

○靜岡婦人協會　同會の例會は去る十九日同地材木町の同會塲にて開會し客員木戸麟、津田利夫二氏の演說あり次に和漢學、英學、唱歌、編物等研修の時間割を協議し午後五時半頃退散したり

○群馬縣女教員養成　群馬縣に於ては女子をして小學校初級の生徒を授業せしむるの緊要なるを知ると雖も如何せん管下從來其任に適すべき者尠きを以て今般之に適する女子を養成するが爲め去月中特に小學校女子授業生傳習手續なるものを定め年齡十五年以上にして高等小學校第二年級以上卒業若くは之と同等の學力を有する女子四十名を管下十七郡より募集したるに志願者三十一名ありて之が試驗を執行せしに其内或は二三の不合格者なきにあらずと雖も本人の望に任せ入學を許可し尋常師範學校附屬小學校舍を假用して之が教塲に充て別に別寄宿所を置きて隨意入舍を許し尋常師範學校教諭中教授の餘暇を以て本月十六日より明治二十一年七月二十日迄十ヶ月間讀書(漢字交り文)作文(日用文、漢字交り文)算術(筆算全書)唱歌(單音及復音)育兒法、授業法、理科初步の諸學科を傳習せしめ傳習濟の上は小學授業生たらしめんと欲する目的なり(本年九月廿一日官報)

○看護婦　近頃醫學の進步するに際し看病者の缺乏を告るは大に遺憾とする所なるが此程大坂衞生課の雇にて同府本庄避病院に於て看病に從事する婦人數名を試驗したるに其内四名は看護上完全のものなれば若し民間にて雇入んとする者は其旨を衞生課へ申出つれば何時にても雇込みの出來るとゝなりしと云ふ

○鹿兒島女子小學　鹿兒島にて先に小學を建設せんとするものありしが其後立消の姿となり居たりしに今度又々有志者の發企にて女子小學を建設する事に決し夫々寄附金を募集せしに已に四百圓内外に及びたりと

○產婆會　滋賀縣下伊香西淺井の兩郡にては產婆と稱すべき者は僅に七名に過ぎず然るに皆不熟練の者のみにて實際の取扱に至り不都合あればとて今度同郡役所にては同縣下長濱より產婦教師を招聘し木の本村淨信寺に於て產婆の有志三十餘名を召集し生理の大意、產婦の蓐上取扱方より出產の際執行すべき手術等を器械に依り教授せしむるよし

○女教師の賞與　京都下京十五組祇園新地八坂女紅塲の裁縫教師三木美雄子は去る十五年二月同塲設置の際より裁縫教師に招聘せられ以來六ヶ年間懇切に藝唱妓へ裁縫術を教授せしに付今度同塲より金三圓を賞與したりと

○女學校設立　仙臺東三番町に新築の筈なる英語女學校は發企者の押川方義氏其他諸氏の旅行の爲め工事に着手せざりしが諸氏も歸省せしに付不日工事に着手する筈なりと同地よりの報

● 海外女事

○米國の女醫　米國紐育府には目下一百五十人の女醫ありて何れも一萬圓內外の歲入を得中には年々一萬五千圓乃至二萬圓を得る者二三人程ある由にて一人は絕えず近年二萬五千圓以上の歲入ありと云ふ

○露國の女子教育　昨明治十九年中露國の各大學にて修學せる女子の數は七百七十九人にて内哲學を修むる者二百四十三人、數學を修むる者五百三十六人之を宗教上より區別する時は希臘教會に屬するもの五百七十八人、猶太教百三十九人にて未婚者七百四十八人、已婚者三十一人なりと又此總數の内四百三十七人は貴族及官吏の令孃、八十九人は僧侶、百二十五人は商人、百十七人は都人士、十八人は農家、四人は兵士、二人は外國人の息女なり斯く多數の就學女子あるは其女子が教育を受くるの熱心なるは素よりなれど先頃同國ウアルソー府に一の高等女學校を設立するに際し同府の令孃某は一個人にて一萬五千ルーブル我金貨にて八千四百圓餘を寄附したり

特別廣告

東京婦人矯風會入名遺漏の分（第六回）（八月後入會）

日本橋區濱町三丁目三番地　田村とも
京橋區元數寄屋町二丁目十三番地　小方ふき
同　特別員　小方仙之助
同新榮町八丁目立教女學校　松原いく
同　林うた
芝區櫻川町二番地　寺村政千代
同琴平町七番地　特別　三吉正一
小石川區第六天町五十番地　伊澤千世
同竹島町三十六番地　正藤よし
神田區猿樂町廿七番地　船尾せん
牛込區南山伏町七番地　竹尾永
麹町區三番町六十三番地串田方　澁谷せき
四谷區船町五十番地　特別　桑田とみ
靜岡縣伊豆國田方郡大平村五十二番地　土屋くま

八月後退會

日本橋區本船町十六番地　島ひて
高知縣廿代筋四番地　岡山とゑ

廣告

女學雜誌大賣捌擴張廣告

弊店儀今般本社と特約を結び大勉強にて賣捌仕候間何卒倍舊續々御愛讀之程伏て奉希上候也

特別大賣捌　書肆望月堂　長野縣北佐久郡小諸町　**小山佐傳治**
同　書肆誠信堂　同縣南佐久郡留町　**依田儀三郎**
同　書肆發兌舍　同縣北佐久郡小諸町　**相場七左衛門**

●結婚媒妁所

東京日本橋區檜物町一番地河岸通り角

全國何人に限らず嫁聟養子共媒妁依頼に應ず御來談を乞ふ

●本校此度校舍を新築し寄宿生を募るに附き塾生心得書を製し本校寄宿舍の組織を世の父兄に示し其愛嬢の爲めに心慮する念を安んぜんとす

明治女學校塾生心得書

塾生は互ひに姉妹の如く交際し取締幹事を見ると猶ほ親の如くして恰も一家に在る時の如く安んじて勉學すべし惣じて大勢集りたる塾中には不行儀亂暴の惡習生じ易きものなれば孰れも先づ我身を愼しみて斯る惡習の生ぜざるように掛念し孰中の風儀を温雅になすべきよう躬ら心掛くべし是れ決して人の事にあらず皆な己れ一身の上に來るべき幸福の基ひとなるもの也左れば下に掲げ示めす心得書の條々の如きは必らず能く守りて決して違背なくど示めるべからず万一誤りて其規則を破りたるときは速に後悔して取締に屆出で後日其過ちを再びせざるよう覺悟すべし抑も諸子の父兄が諸子を我學校に托して此の塾中に入るゝは只だ諸子の風儀を研かせわつばれ人に愧かしからぬ淑女となさんとこそ望まるゝゆゑなり、又我學校にて此の塾舍を設け諸子を引受て斯く一塲に寄宿せしむるは諸子に成べく良好の風儀を敎へて學文讀書の外に立派なる品徳を得せしめんとこそ望むゆゑなり諸子が父兄の許を得喜んで玆に寄宿しわりたるも亦た必竟此等双方の望む所を好み玉へるが故ならん故に苟且にも玆に禁じたる規則を破らざるのみかる例令ひ玆に明記せさるとも凡そ良心に問ひて裏はづかしと思はるゝ事は敢て之を行はざるよう常々心掛けて品行を修練わりたく、但だ諸子一人の心得に依りて三方の望む所を徒らにするようの過なからんことをくれ〴〵も希ふもの也

第一節　總則注意

第一條　一晝夜二十四時間を分つて安眠時間、勉學時間、自由時間、運動時間の四とす

第二條　每朝始業總會を開き每夜終業總會を開く此の夜分の總會の節一々塾生の名を呼び品行紫の取調を爲すとき其日中に於て若し塾生心得書に禁じたる規則を犯したるものは躬ら申出で、罪を謝すべし取締は別席にて其故を問ひ過ちの多少に由りて品行紫を減ず然れども若し右規則を破り乍ら此の申出を爲さず反て他より覺はるゝときは其罰淺からざるべし也

（以下次號）

遞信省認可

●明治女學校生徒募集幷びに新築落成廣告

本校漸次隆盛の域に進み從來の校舍非常の狹隘と相成り候に付き今般高燥の地を卜し校舍を新築し略ぼ落成を告ぐ依て新入女生徒五十名の入學を許し且寄宿生八十名を募る精細の規則は附て承知あるべし○規則書御望みの御方は新橋日吉町八番地女學雜誌社へ宛て郵券二錢送附あれば直ちに發送すべし

東京麴町區飯田町三丁目三十二番地

明治女學校

藤尾錄郎君著

實地應用 家計簿記法例題

正價金拾八錢郵送料金拾錢

曩日家計簿記法（正價四十錢郵稅十六錢）の著あるや江湖之を便とし今日既に大に行はるゝを得たるは本懷に堪へず而して家を成せる紳士婦人方にありては朝夕の出納細大之が應用を試むるの機會ならざるなく之を實習するの材料に乏しからずと雖も未だ事に實際に當らざる令孃娘子等に在ては如何なる事を記入す可きやと其趣向に當惑し玉ふ方も甚だ多しと見へ著者に就て記入法の敎授を求めらるゝもの頻々なり是れ著者が其敎授せしまゝを筆記して更に此例題を著はし其標準を世に示さんとせし所以なりされば此書や內政に當らるゝ婦人方にいまだ要なしと雖も世の幼婦少女殊に女學校の生徒等にして家計簿記を學習せんとする者には實に欠く可らざるの要具と云ふ可し

發兌 東京々橋區彌左衛門町 **經濟雜誌社**

賣捌 東京小林○丸善○博聞社○集成社○叢書閣○中央堂○澤屋○大坂梅原○丸善○京都大黑屋○集光堂○橫濱丸善○其他書肆

發兌

九月○三日 十日 十七日 廿四日
十月○一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十一月○五日 十二日 十九日 廿六日
十二月○三日 十日 十七日 廿四日 三十一日

定價

一册○五錢 郵稅○一錢（但府內無郵稅）
十册○四十八錢郵稅○十錢（同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

一行（廿七字詰）一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引○二十行以上二割引○四十行以上三割引○但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町鬪々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町二丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○橫濱伴吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原緣町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY